ハザードマップの使い方・災害時の伝言方法

ハザードマップの使い方

1. 自宅や勤め先、学校などの周辺の危険箇所をハザードマップで確認しましょう。
2. あらかじめ、避難場所や避難経路、家族との連絡手段などを話しあいましょう。
3. いざというときの安全な避難行動、日頃からの備えを確認しましょう。

内水氾濫と洪水（外水氾濫）の違い

内水による浸水と、洪水（外水）による浸水は、発生するメカニズムが違います。
内水は雨の水が排水できずに浸水しますが、洪水は河川から水が流れ出して浸水します。

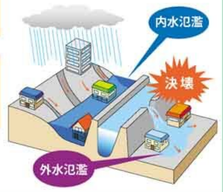
内水による浸水と洪水の違い

内水による浸水（内水氾濫）

雨の量が下水道や道路側溝などの排水施設の能力を超えたり、河川の水位が高くなったとき、雨水を排水できずに、浸水することがあります。

洪水（外水氾濫）

大雨によって河川の水位が高くなると堤防を越えて水があふれたり、堤防の土砂が流出して決壊することがあります。



災害時の伝言方法

●**災害用伝言ダイヤル「171」（NTT東日本）**安否確認や避難している場所を音声で伝言することができます。

利用方法：171にダイヤル → 録音の場合 1 / 再生の場合 2 → 市外局番から電話番号を入力（被災地の方は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の方の電話番号を（☒☒☒☒）☒☒-☒☒☒☒）

●**災害用伝言板（携帯電話各社）** 携帯電話から専用の伝言板サイトで、伝言を残すことができます。

NTTドコモ	KDDI: au	ソフトバンク	楽天モバイル
http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi	http://dengon.ezweb.ne.jp/	http://dengon.softbank.ne.jp/	https://public-safety.mobile.rakuten.co.jp/?lang=ja

災害用Web伝言板

スマートフォン、パソコン等から、災害用Web伝言板（Web171）にアクセスすることで、テキストによる伝言（安否情報）の登録・確認を行うことができます。

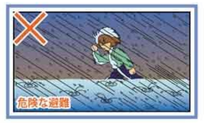
https://www.web171.jp/

※各携帯会社でも、災害時に災害用伝言板のサービスを提供しています。

避難の方針

立退き避難（水平避難）と屋内安全確保（垂直避難）

内水氾濫では、必ずしも避難場所等に移動する立退き避難（水平避難）をする必要はありません。想定されている浸水深が3m未満であれば、２階以上は安全です。自宅内や近隣の高い建物でも安全が確保されるのであれば屋内安全確保（垂直避難）ができます。ただし土砂災害の危険性がある場合は、屋内でもがけと反対側に移動するようにしましょう。命を守る行動が避難行動です。



土砂災害の危険がある場合がけと反対側の２階以上へ避難します。
何よりも命を守る行動を !!

自宅内や近隣建物に安全な場所がある場合は、無理に立ち退き避難せずに自宅等にて避難することも検討してください。

避難判断の流れ

内水ハザードマップや洪水・土砂災害ハザードマップで自宅等を確認し、避難判断の流れに沿って確認しましょう。

ハザードマップで自宅等の周辺は？

浸水想定区域内 土砂災害警戒区域内	浸水想定区域外 土砂災害警戒区域外

→ 自宅等にて避難（屋内安全確保）。
※土砂災害警戒区域、浸水想定区域に近い場合や危険を感じる場合は、必要に応じて立退き避難をしましょう。

立退き避難は必要か？

想定される浸水深より低い階に居る 土砂災害警戒区域内 家屋倒壊等氾濫想定区域内	想定される浸水深より高い階のある場所に居る

→ 自宅等にて避難（屋内安全確保）。
ただし、水が引くまで過ごすための飲料水・食料・携帯トイレなどの備えが必要です。
※目安は3日以上（推奨1週間）

自宅等は危険です。避難が必要な場合は、指定緊急避難場所等へ避難しましょう。
※親戚や知人宅への避難も検討しましょう。

避難のタイミング

タイムライン

災害が発生するおそれが高まった時に、気象庁や新座市から５段階の警戒レベルが発表されます。
警戒レベルに応じて、安全な避難行動をしてください。

危険度の高まりに応じて段階的に発表される防災気象情報ととるべき行動

警戒レベル	気象情報	気象庁等の情報（令和8年5月下旬（予定）より変わります）	新座市からの情報	市民のみなさまがとるべき行動
1	大雨の数日～約1日前	早期注意情報（警報級の可能性）		災害への心構えを高める
2	大雨の半日～数時間前	大雨注意報 氾濫注意報 土砂災害注意報		ハザードマップ等で避難行動を確認
3	大雨の数時間～2時間程度前	大雨警報 氾濫警報 土砂災害警報	高齢者等避難 →気象情報等の警戒レベルにより、自動的に発令するものではありません。	立退き避難の必要がある方は、避難の準備ができたら、避難開始 高齢者等は速やかに避難 お年寄りや身体の不自由な方は、避難を開始しましょう。 その他の方は、避難の準備をしましょう。 正確な情報を入手しましょう。
4		大雨危険警報 氾濫危険警報 土砂災害危険警報	避難指示 注意してください！ 非常！とても危険！	危険な場所から全員避難 ・安全な場所にすみやかに避難 お互いに助け合い避難しましょう。 道路冠水や土砂崩れ等により、避難が困難な状況になる前に避難を完了 まだ避難していない人は、直ちに指定緊急避難場所や近くの安全な場所へ避難をしましょう。 移動することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。
5	災害が発生または切迫	大雨特別警報 氾濫特別警報 土砂災害特別警報	緊急安全確保 すでに災害が発生している状況	命の危険 直ちに安全確保！

避難時に出される情報

避難情報と警戒レベル

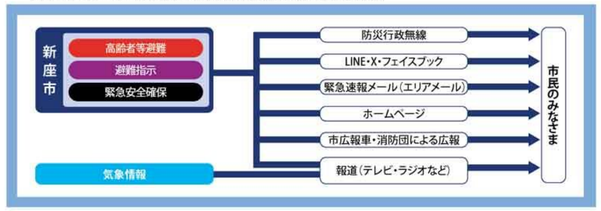
風水害時には、警戒レベル等や周辺の状況を踏まえて、新座市からレベルに応じた避難情報を発令します。

警戒レベル	種類	市民のみなさまがとるべき行動
警戒レベル３	高齢者等避難	避難に時間のかかる高齢者や障がいのある人は、危険な場所から避難しましょう。また、その他の方も、必要に応じて、普段の行動を見合わせたり、避難の準備をして、危険を感じたら自主的に避難を開始するタイミングです。
警戒レベル４	避難指示	危険な場所から全員避難しましょう。
警戒レベル５	緊急安全確保	直ちに身の安全を確保しましょう。 すでに安全な避難ができず、命が危険な状況です。「緊急安全確保」の発令を待ってはいけません。

避難情報が出ていない場合でも、身の危険を感じたら、すぐに避難行動をとりましょう。

情報伝達の流れ

災害時には、以下の方法で避難情報や気象情報を発信します。



早期立退き避難

早期立退き避難が必要な区域　洪水・土砂災害ハザードマップもあわせて確認してください。

これらの区域では立退き避難をしてください

- **浸水深3.0m以上になる区域**
  ※建物が1階建ての場合は、浸水深0.5m以上になる区域
- **洪水時に家屋が倒壊するおそれのある氾濫想定区域**
  （家屋倒壊等氾濫想定区域内）
- **土砂災害警戒区域内**
  ※土砂災害からの避難は立退き避難が基本

非常持ち出し品

非常持ち出し品・備蓄品

非常時（避難時）に持ち出すものは、災害の発生に備えて、普段からリュックサックなどの非常用持出袋に準備しておきましょう。持ち出し品は最小限とし、両手は使えるようにしておきましょう。

非常持ち出し品（例）

※準備したものに☑チェックを付けましょう。

- □飲料水（１人１日３L程度）
- □食料（アルファ化米・チョコレート・缶詰など）
- □眼鏡・コンタクトレンズ
- □懐中電灯
- □携帯ラジオ
- □靴・スリッパ
- □軍手・使い捨て手袋
- □衣類
- □防犯ブザー
- □生理用品
- □紙オムツ（乳幼児用・成人用）
- □タオル
- □ブランケット・寝袋
- □携帯トイレ
- □雨具（レインコート・折りたたみ傘）
- □貴重品（現金（硬貨も準備）・通帳・マイナンバーカードなど）
- □筆記用具・ノート
- □医薬品・常備薬・ばんそうこう・包帯・常用薬
- □乾電池・モバイルバッテリー
- □ナイフ・缶切り
- □粉ミルク・液体ミルク・離乳食・ほ乳びん
- □洗面用具（歯ブラシなど）
- □ビニール袋
- □使い捨てカイロ
- □マスク・体温計
- □ヘルメット・防災ずきん
- □手指消毒液・除菌シート
- □トイレットペーパー・ウエットティッシュ

使いながら備える「ローリングストック」

災害用に特別なものを用意するのではなく、日頃から食べ慣れているもの、使い慣れているものを多めに備蓄し、消費したものを補充することを「ローリングストック」といいます。

防災訓練に参加しましょう

万が一の時にも落ち着いて行動し、対処できるよう地域で行われている防災訓練や防災イベントに積極的に参加しましょう。

避難の心得・大雨時の危険な場所

避難の心得

避難時にあわてないため、日頃から避難の心得を覚えておき、必要なものを準備しておきましょう。
また、みんなで避難の手順について話し合っておきましょう。
災害時には、正確な情報を入手して、すばやく避難しましょう。

- **●状況により、すばやく避難**
  避難情報などが発令されていなくても、状況などから判断し、自主的に避難しましょう。
- **●家族には連絡メモを残そう**
  外出中の家族に「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておきましょう。
- **●わが家の防災メモを持とう**
  住所・氏名・連絡先などを記載した防災メモを用意し、身につけて避難しましょう。
- **●集団で助け合おう**
  単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。
- **●車での避難は控えて**
  車は、約30cmの浸水で走行困難になります。車での避難は控えましょう。
- **●安全なルートで避難**
  川べり、がけ沿いなどは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。
- **●はき物に注意**
  転倒やけが防止のため、動きやすい運動靴で避難しましょう。
- **●指定緊急避難場所では指示に従いましょう**
  指定緊急避難場所に着いたら、係の人の指示に従い、住所・氏名を報告しましょう。

大雨時に危険な場所

指定緊急避難場所等までの経路には、いろいろな危険が潜んでいます。日頃から身の回りの様子を観察し、大雨のときに注意すべき場所を、ハザードマップに書き込んでおきましょう。

- **●地下道（アンダーパス）**
  地下道（アンダーパス）は、大雨時には周辺から水が流れ込み危険です。
- **●土砂災害警戒区域等（がけ崩れの危険がある区域）**
  「がけ（急傾斜地）」は、大雨が降ると崩れるおそれがあります。大雨時には近づかないようにしましょう。また、「がけ」の近くに住宅がある場合には、早めの避難を心がけましょう。
- **●水路の周辺**
  水路には、ガードレール等の柵がないことがあります。浸水時には、水路の場所が分からなくなり、誤って落下し、流される危険があります。
- **●浸水実績箇所**
  周辺よりも低くなっていることが多く、水が溜まりやすいので、注意が必要です。

大雨時の地下は注意が必要　洪水や豪雨時の地下施設、地下室などは危険です。地上の浸水状況とは大きく異なり、冠水や停電の危険性が高いため、特に早めの避難が必要です。

日頃の準備

自宅まわりの風水害対策

風水害による家屋の被害を抑えるために、日頃から家の周りの点検や整備を行いましょう。

家庭でできる簡易水防

簡易水のうの作り方

浸水が浅い場合には、水のうを設置することで、浸水防止に活用できます。

台所

床下が浸水すると、床下収納のふたが開いて、水が入ることがあります。重しを置いて、水の浸入を防ぎましょう。

簡易水防１　プランター＋ビニールシート

簡易水防２　簡易水のう＋止水板

土のうステーション

新座市では「土のうステーション」を設置しております。風水害が切迫している状況など、緊急時においてはご自宅などの浸水対策に、土のうステーションの土のうを使用してください。

https://www.city.niiza.lg.jp/site/bousai/donou-station.html

情報の入手方法

緊急時の情報入手先

インターネットなどからも情報を入手できます。自ら情報を入手しましょう。

インターネット

新座市防災サイト

新座市防災　検索

https://www.city.niiza.lg.jp/site/bousai/#main_body

緊急情報をはじめ、避難所開設情報、気象庁へのリンク、河川カメラや観測所情報へのリンク、ライフライン情報など、防災に関する情報を集約しています。

新座市 LINE 公式アカウント

@niizashi　検索

新座市では、公式 LINE アカウント運用しています。
市からのお知らせや災害時・緊急時に必要な避難の情報などを発信します。
右のコードを読み取るか、LINE の友だち追加画面で「検索」をクリックして「新座市役所」を友達追加してください。

新座市防災行政無線

最新の放送内容は、ホームページで確認できます。

https://www.city.niiza.lg.jp/site/bousaimusennonaiyou/

防災行政無線に関するテレフォンサービス（フリーダイヤル）でもご確認いただけます。

はろーにいざきゅうきゅう
☎0120-862-399

避難所の混雑状況「VACAN（バカン）」

新座市避難所混雑状況　検索

https://vacan.com/area/niiza-city-evacuation/evacuation-center/12

避難所の災害発生時の避難所開設状況や各避難所の混雑状況をリアルタイムで確認できます。